

平成27年度施策評価調書

整理番号	27
評価担当課	教育部学校教育課
職・氏名	

1 施策の名称等

施策名(基本事業)	教育環境の整備		
総合計画の位置づけ	基本目標	V	心豊かな人と文化を育むまちづくり
	主要施策	3	小中学校教育の充実

2 施策の現状分析と意図

施策の対象、意図(誰、何をどのようにしたいのか)	教育効果を高めるために、小中学校の適正配置及び通学区再編の検討を進め、計画的な学校施設の整備に取り組んでいく必要がある。
施策の現状(現状どのような手段を講じているか)	少子化の進行に伴い児童生徒数が減少し、1学年で複数学級が維持できない学校が増加するなど、教育効果や学校経営に影響が現れている。このことから学校の適正規模・適正配置の検討を進めている。その結果、名寄市街地区の小学校が5校から4校に、東風連小学校が風連中央小学校と統合することになった。
施策の課題	児童生徒数の減少に対応し、学校の適正規模・適正配置の検討を進めるとともに、老朽化した学校施設の整備を計画的に進めていく必要がある。

3 成果指標の達成状況

成果指標	指標の説明	区分	H24	H25	H26	目標年度(27年度)
学校施設の整備	老朽化した学校施設の整備	目標値				1
		実績値				1
		進捗率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
		目標値				
		実績値				
		進捗率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
		目標値				
		実績値				
		進捗率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
		目標値				
		実績値				
		進捗率	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	

4 施策の達成状況

施策の達成度	理由・問題点等	評価基準
B	名寄南小学校の改築、名寄西小学校の増築、さらには風連中央小学校の改築計画と計画的な学校施設の整備が進められている。ただし、依然として耐震化率は100%になっていないことから引き続き適正配置と連動した施設整備が必要となっている。	A: 計画目標に向けて順調に推移 B: 計画目標に向かって概ね順調 C: 計画目標に向けて進捗はやや遅れている D: 計画目標に向け進捗は遅れている

5 今後の方向性

今後も財政計画と連動した施設整備を進めていく必要がある。

6 ワーキンググループの意見等

1次評価のとおり

7 外部評価の意見等

1次評価のとおり

8 2次評価の意見等

1次評価のとおり

9 施策を構成する事務事業

(1)H26年度実施事業

事業番号	事務事業名	事業の概要	H26決算額	1次評価						外部評価	2次評価
				妥当性	有効性	効率性	公平性	達成度	評価		
1	スクールバス更新事業	老朽化したスクールバスを更新することで、安全な移動手段を確保する	7,020	a	b	b	a	a	C		
2	小中学校情報機器整備事業	教育用端末を年次計画により更新する。	20,476	a	a	b	-	b	A		
3	心の教室相談員配置事業	日常のストレス緩和や問題行動の未然防止のため相談員を配置する。	2,100	a	a	b	-	b	A		

(2)その他の取組(既に終了した事業や予算を伴わない取組等(1)以外の取組を記入してください。)

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	27	枝番	1
評価担当課・係・職名・氏名	学校教育課		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	スクールバス更新事業			
総合計画の位置づけ	有・無	基本目標	5	心豊かな人と文化を育むまちづくり
		主要施策	3	小中学校教育の充実
		基本事業	1	教育環境の整備
		実施計画事業	2	小中学校施設・設備の整備

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	学校統廃合による遠距離通学児童生徒の通学手段の確保、及び社会見学等に有効利用のため			
対象(何を又は誰を)	市内小中学校へ通う児童生徒			
手段=活動(仕事)	補助事業などを利用し、年次計画により更新する。			
意図(どのような成果を期待しているか)	老朽化したスクールバスを更新することにより、安全な移動手段を確保する。			
事業実施主体	名寄市			
事業実施方法	直営 一部委託 全部委託 補助等 請負 その他()			
事業実施期間	始期	H24年度	終期設定	有(終期 H28年度) ・ 無
根拠法令・条例等				

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度(H28年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 スクールバス更新	台	目標	1	1	1	1	5
			実績	1	1	1		5
	2	目標						
		実績						
	3	目標						
		実績						
成果指標	1 スクールバス更新		目標	1	1	1	1	5
			実績	1	1	1		5
	2	目標						
		実績						

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳	
事業費	6,317	5,710	7,020	7,210	スクールバス購入 7,020千円	
国道支出金	1,950	2,500	1,990	2,570		
地方債	4,300			4,600		
その他						
一般財源	67	3,210	5,030	40		
人件費	0	0	0	0		
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629		
担当職員数						
総事業費	6,317	5,710	7,020	7,210		
対前年比(%)	—	90	123	103	コストの算出方法	
事業コスト	活動指標1	6,317	5,710	7,020	7,210	
	活動指標2					
	活動指標3					

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3) 事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	
改善点	指摘事項 有 () —

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	本事業は、総合計画掲載事業である。 学校統廃合後の児童生徒の通学手段の確保であり、自治体で行わなければならない対策である。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	b	主要路線にはスクールバスを配置しているが、児童生徒数が少ない場合、タクシーなどを活用し経費の削減も行っている。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	b	児童生徒数の減少により、バスより経費の圧縮ができるワゴンの導入も今後検討しなければならないが、通学時間以外にも社会見学やスキー・カーリング授業等で有効活用している状況にもある。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがはないか？	a	統廃合した学校校区の児童生徒の通学手段の確保であり、現状で対象者の拡大は考えられない。
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	a	毎年度計画的に1台ずつ更新しており、目標どおりとなっている。

5 1次評価

評価結果	理由	
C	計画的に更新しており、H28年度で一通り更新は終了する。但し、今後東風連小学校の閉校等により運行路線の見直しも必要となる。	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	
C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	スクールバスの更新は終了し、一時休止しても問題ないが、上記理由による路線見直し等により、更なる購入が必要となることも想定される。	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
C	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
C	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
C	1次評価のとおり

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	27	枝番	2
評価担当課・係・職名・氏名	学校教育課		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	小中学校情報機器整備事業			
総合計画の位置づけ	有・無	基本目標	5	心豊かな人と文化を育むまちづくり
		主要施策	3	小中学校教育の充実
		基本事業	2	教育内容の充実
		実施計画事業	5	情報教育の充実

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	高度情報ネットワーク社会の中で、子どもたちの情報活用能力の育成をはかる。併せて教職員の業務			
対象(何を又は誰を)	市内小中学校の児童生徒、教職員			
手段=活動(仕事)	補助事業などを利用し、年次計画により情報機器を更新する。			
意図(どのような成果を期待しているか)	パソコンに親しむと共に活用方法を学習することにより、時代の潮流や環境の変化に対応し、子どもたちの生きる力を育ていく			
事業実施主体	名寄市			
事業実施方法	直営 一部委託 全部委託 補助等 請負 その他()			
事業実施期間	始期	H19 年度	終期設定	有(終期 年度) 無
根拠法令・条例等				

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (年度)
				目標	実績	目標	実績	目標
活動指標	1 教育用端末更新整備	台	目標			300		
			実績			297		
	2 教員業務用端末更新整備	校	目標	15				
実績			15					
成果指標	1 教育用端末更新整備	台	目標			300		
			実績			297		5
	2 教員業務用端末更新整備	校	目標	15				
			実績	15				

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳
事業費	28,838	0	20,476	20,449	小中学校パソコン教室用機器整備 20,476千円
国道支出金					
地方債					
その他					
一般財源	28,838		20,476	20,449	
人件費	0	0	0	0	
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629	
担当職員数					
総事業費	28,838	0	20,476	20,449	
対前年比(%)	—	0	#DIV/0!	100	コストの算出方法
事業コスト	活動指標1		20,476	20,449	
	活動指標2	28,838			
	活動指標3				

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3) 事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	
改善点	指摘事項 有 () —

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	本事業は、総合計画掲載事業である。時代のニーズに即した子どもたちの育成を図るために必要不可欠で、義務教育という範ちゆうであり当然自治体が行わなければならない。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	パソコン教室の情報機器や電子黒板・実物投影機等を整備しているが、今後タブレット端末など更に進化する情報機器の導入を検討して行かなくてはならない。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	b	タブレット端末の整備や電子教科書など、コスト削減というよりも更なる負担増が想定される。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	—	—
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	b	情報機器の導入にあたっては、有効な補助制度がない状況であり、導入計画を吟味しながら整備していく必要がある。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	情報教育の推進は、今後の教育において必要不可欠なジャンルであり、今後も更なる情報機器の活用が必要となってくる。	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し(廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり

平成27年度事務事業評価調書

整理番号	27	枝番	3
評価担当課・係・職名・氏名	学校教育課		

1 施策体系と事務事業

事務事業名	心の教室相談員配置事業			
総合計画の位置づけ	有・無	基本目標	5	心豊かな人と文化を育むまちづくり
		主要施策	3	小中学校教育の充実
		基本事業	2	教育内容の充実
		実施計画事業	2	心の教育の推進

2 事務事業の概要等

目的(何のために)	生徒が心の悩み等を気軽に話せる環境を整える。			
対象(何を又は誰を)	中学生			
手段=活動(仕事)	中学校3校に相談員を配置し、昼休みや放課後に生徒と面談などを行う。			
意図(どのような成果を期待しているか)	生徒の心身安定のため、日常のストレス緩和や問題行動の未然防止に努める。			
事業実施主体	名寄市			
事業実施方法	<input checked="" type="radio"/> 直営 <input type="radio"/> 一部委託 <input type="radio"/> 全部委託 <input type="radio"/> 補助等 <input type="radio"/> 請負 <input type="radio"/> その他()			
事業実施期間	始期	H19 年度	終期設定	有 (終期 年度) <input checked="" type="radio"/> 無
根拠法令・条例等				

3 事務事業の現状

(1) 達成状況等の推移

	指標名及び内容	単位		H24	H25	H26	H27見込	目標年度 (年度)	
				目標	実績	目標	実績	目標	実績
活動指標	1 心の相談員の配置	人		目標	3	3	3	3	
				実績	3	3	3	3	
	2			目標					
				実績					
	3			目標					
				実績					
成果指標	1 心の相談員の配置	人		目標	3	3	3	3	
				実績	3	3	3	3	
	2			目標					
				実績					

(2) 事業費の推移

(千円)

区分	H24決算	H25決算	H26決算	H27予算	平成26年度の事業費内訳
事業費	2,100	2,100	2,100	2,100	相談員の配置(3名) 2,100千円
国道支出金					
地方債					
その他					
一般財源	2,100	2,100	2,100	2,100	
人件費	0	0	0	0	
平均給与額	6,683	6,629	6,629	6,629	
担当職員数					
総事業費	2,100	2,100	2,100	2,100	
対前年比(%)	—	100	100	100	コストの算出方法
事業コスト	活動指標1	700	700	700	
	活動指標2				
	活動指標3				

※H26及びH27年度平均給与額は仮の数値です

(3) 事業スタート後の情勢変化やこれまでに取り組んだ改善点

情勢の変化	
改善点	指摘事項 有 () —

4 事務事業の点検

以下の視点から点検し、(a:高い、b:やや高い、c:やや低い、d:低い)から選択し、その理由等を記入すること。

項目	評価	判定した理由・説明等
妥当性 市が主体的に実施すべきか、社会・市民ニーズに適合しているか？	a	本事業は、総合計画掲載事業である。 急激に変化する社会情勢の中、知らないうちにストレスを抱えてしまうようなケースが増えており、生徒に精神的拠り所を提供する必要がある。
有効性 目的を達成するための方法として有効か？	a	相当数の相談件数があり、今後も相談員を配置する必要がある。
効率性 経費に見合った成果が発揮されているか、コスト削減の余地はないか？	b	学校により相談件数に差は出ているが、生徒の立場にそったきめ細やかな相談体制が重要であり、継続していく必要がある。
公平性 受益者負担は適正か、受益者に偏りがないか？	—	—
達成度 活動指標、成果指標の達成度は？	b	今後も3名体制を維持し、随時研修などを行っていくなど、相談員のスキルアップを図っていく。

5 1次評価

評価結果	理由	
A	相当数の相談件数があり、今後も相談員を配置する必要があるため、現状のまま継続する。	
A:現状のまま継続 B:進め方を改善 C:規模・内容を見直し D:抜本的な見直し (廃止・縮小)	改善の方向性(評価B,C,Dの場合には必ず記入すること)	

6 ワーキンググループ評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

7 外部評価(1次評価に対する提言等)

評価結果	提言等
A	1次評価のとおり

8 2次評価(1次評価、外部評価を受けての最終評価)

評価結果	意見等
A	1次評価のとおり